教育厚生委員会　県内調査活動状況

１　日　　時　　平成２２年５月１８日（火）

２　出 席 委 員（８名）
　　委 員 長　　山下　政樹
　　副委員長　　白壁　賢一
　　委　　員　　中村　正則　　内田　　健　　保延　実　　望月　　勝　　木村　富貴子
　　仁ノ平　尚子

　欠 席 委 員　　なし

　地 元 議 員　　土屋　直　議員　　土橋　亨　議員（甲府市）

３　調査先及び調査内容

（１）**【県立甲陽学園】**

○調査内容（主な質疑）

問）　定数は２５名ということであるが、今は何名いるのか。

答）　男女含めて１２名である。

問）　定員２５名で一番多かった時と一番少なかった時はどの程度であるか。

答）　この２５名の定員数は再整備の後の定員数で、改修前は２０名であった。それで２０名の定員を満たしたことはない。ただし、女子が１０名、男子が１０名の定員に女子が１２名入ったことがある。入所児童がゼロという時が１ヶ月あり、平成１５年には男子児童がゼロという月があった。

問）　短い期間でもゼロになったことがあるいう話だけど、この一つの施設にかける税金は莫大で、そういう中で施設運営を考えていかなければならない。難しい問題だが、もしも他に処遇の方法があるとすれば、こういう特定の施設でなくて別の方法に移行する方法も考える必要があるのではないか。先ほどの話で入所児童がゼロになったときが２年続いたらどうするのか、一人とか二人とかがずっと続いたらどうするのか。

答）　甲陽学園は、資料にもあるように、安定した生育環境を保証して、非行や問題行動などで指導が必要な子どもや、特に最近は、発達障害や児童虐待により問題行動を引き起こすケースが増えているが、こうした子どもの自立を助ける施設である。
　他にも福祉、教育、医療の面から施設がありますが、問題行動、非行、発達障害などは甲陽学園で対応するしかなく、施設を抜け出して、県外などにまで行ってしまう、そういう子どもを連れ戻し、個別支援をおこなって面倒をみる、本当に一人一人の子どもたちに献身的に対応しなければ機能を発揮できないという施設で費用対効果というものが計算しにくい部分があるが、公共施設であり、効率的、効果的な運営には十分に配慮していきたいと思っている。

問）　入所する子どもたちは虐待の経験があるのか。

答）　今、園にいる子供は、全員が虐待経験があり、非常に心に傷を受けている子供ばかりである。そういった子どもたちをここで受けて、その傷を治癒するため、虐待を受けてねじれた心を一つ一つほぐしていくのは、かなり時間を要する。時間をかけて支援して、やっと退園に結びついても、社会の荒波の中で、また、糸がとぎれてしまう。そういうことからも、アフターケアが非常に大切である。

問）　多分そうだろうと思う。心の寄りどころとなるように、先生方がなさっているわけだから、そういう子供がその後も相談に来られるようにしていただきたいと思う。ところで、制服はあるのか。

答）　中学生には制服がある。

問）　それは貸与なのか。

答）　そのとおりである。

問）　お配りいただいた要覧だが、これはどのように使われているか。

答）　見学者がいらっしゃった時に、この要覧を配付して説明している。

問）　表紙に非行・問題行動などでと、はっきり書いてあり、目にしたときに差別視みたいなものを助長しないかと、非行や問題行動がない場合もあるのではないのか、ちょっとどうかと思ううだが、いかがか。

答）　ご指摘の文言については、基本的な甲陽学園のダイジェストとしてこの言葉を使用しているが、非行・問題行動という言葉にばかりスポットがあたると、確かにそのとおりであり、検討する必要があるかと思う。

問）　もうひとつ、先ほどの説明のなかで中学生に小学生のテキストを利用することは基本的にはないとの話で、私はいいと思うが、あえてお話したのは意味があるのか。

答）　例えば中学生３年生で入校してきた子供たちに、私たちがどの程度の学力があるのかは、十分把握することができる。私たちも教職を経験しており、国語がどの程度、算数がどの程度ということは十分承知をしている。最初から使わないということではなく、３年生の教科書を使いながら小学校の教科書も使うという、そういう意味であり、決して使わないという意味ではない。いきなり、小学校の教科書を使うと、自分のことを馬鹿にしているのかと受け取られてしまい、やはり３年生で入所した子には、３年生の教科書を教えて欲しいという子供たちの願いがある。それを尊重しつつ、小学校の教科書を小学校の先生から借りて、個別に取り出して教えている。

問）　普通の学校だと、舞台があって、ピアノがあると思うんだけど、この体育館で何かセレモニーを行うことはあるのか。

答）　この体育館では、開園式などを行っている。

問）　先ほど、部長の説明のなかで新潟に行ってしまったという話がありましたが、ここの子どもたちは小遣いをもらうということはあるのか。

答）　先ほどの子どもは、１日に何回も外に出て、この下の国道で車を止めて行ってしまう。たまたま、止めたトラックが新潟までの定期便だったものだから、新潟に行ってしまったものである。お金は担当職員が預かり、日常ではお金は持っていない。

問）　修学旅行はいくのか。

答）　毎年、中学校、小学校で実施している。

問）　子どもたちが地域の関係たちと交流をする接点というものはあるのか。

答）　年間行事のなかに、「フェスタ甲陽」というのが１０月にあり、これは運動会である。今まで運動会という呼び方だったが、子どもたちが格好悪いということで児童が命名して「フェスタ甲陽」と呼んでいる。１０月の運動会には地域のお年寄りを招いて行っているところである。また、２月に園遊会という文化祭があり、模擬店とか開きまして、そのときには地域の方がお見えになる。ボランティアの方々と昭和３０年代からのお付き合いで、野球大会とかサッカーとかでいろいろ交流しているところである。

問）夜間はこの職員数で対応が可能なのか。

答）　夜間は女子寮に１名、男子寮に１名と当直補助の職員１名、合計３名の職員で対応している。日勤は日曜日が２名ずつで４名。問題は先程も申し上げたが、児童が無断で出て行ってしまった場合であり、その時は、外部の職員に連絡して対応するので、どうしても時間が経ってしまう。

問）　子どもが外へ出てしまった場合、広範囲になると職員だけでは対応できないと思うが、どのように対応しているのか。

答）　子どもが勝手に外へ飛び出すのを無断外出と呼んでいますが、無断外出の対応マニュアルがあり、初動捜索が１時間経過した場合は最寄りの警察署に通報して協力を得ることになっている。

問）　総事業費は８億ということですが、そのうち国の支出はどのくらいですか。

答）　総事業費８億１，６２１万円に対し、国庫支出金は８，５４３万２千円、県債５億２，６００万円、一般財源は２億４５８万９千円である。

問）　建物に対しての国からの補助金、また運営していくための補助は程度なのか、教えて欲しい。

答）　定員に対して１人当たりにいくらと決まっており、８，５４３万２千円、それから、運営費については、平成２１年度は６，２１５万２千円、平成２２年度は５，９１９万２千円となる。

問）　たとえば、子供の数１人当たりに対してこうだとか、建物の面積に対してこうだとか、ということが分かれば、何メートルにいくら補助を出すということではないのか。時間がないので、もし詳しい話になるのでしたら、資料的なものを出していただきたい。もうひとつ、この学校には虐待により子供の傷をいやすため相談する、普通の学校でいえば、スクールカウンセラーみたいな方が常駐しているのか。

答）　常駐をしている。

問）　その方は臨床心理士ですか。

答）　そのとおりである。

※　甲陽学園の体育館で説明・質疑の後、施設を視察した

（２）　**【県立科学館】**

○調査内容（主な質疑）

問）　入館者のうち、プラネタルーム観覧者はどの位の割合なのか。

答）　利用者が全体で１４万人弱であり、約４割位がプラネタルームをご覧いただいている。

問）　リニューアル前後で、上映時間の回数に変化はあったのか。

答）　上映時間については、とくに変更はない。

問）　なぜこんな質問をしたかと言うと、１月にプラネタルームに来たいという人と一緒に来たんだけど、上映時間があまりにも待たされて、あきらめて帰ったことがあるので。
　そこで、入館者の４割の方が見ているのであれば、もっと上映回数を増やすことも可能かなと思って質問をさせていただいたが、その結果状況を検討しているのであれば、教えてほしい。

答）　平日につきましては、この来館者数の兼ね合いもあり、土日より少ない回数である。土日については、１日に５回上映しており、準備もあり、これが限界なのかなという事情である。

※　県立博物館の会議室で説明・質疑を行った後、プラネタリウム機器ほか館内施設を視察した。

以上